

頼りになるお兄ちゃん

登校時の風景。兄弟姉妹が仲良く一緒に登校する姿をよく目にします。そのような中、先日目にした微笑ましい風景を二つ紹介します。

一つ目は、3人兄妹。下の兄は、3人の先頭をさっさと歩いていましたが、6年生になる上の兄は少し遅れて歩いています。よく見ると、1年生の妹が上の兄のランドセルのひもを握りしめて後ろからついていっているのです。表立って妹の世話をしているのではないのですが、小さな妹に頼られ、さり気なく妹を連れ立って歩く兄の姿に優しさを感じました。

二つ目は、やはり1年生になる妹をもつ5年生の兄。一緒に歩いて登校中、街頭指導に立っている私にすれ違う場面です。「おはようございます。」とあいさつをした兄は、妹に「あいさつするんよ。」と耳打ちしてあいさつを促していました。これまでは、どちらかというとしっかり者というイメージではなかった兄が、妹を指導している姿を目の当たりにして、何だかとても頼もしく、嬉しく感じました。



お兄ちゃんだけではなくありません。学校には、他にも頼もしいお兄ちゃん、お姉ちゃんの姿がたくさんあります。今年度は、縦割り班で遊ぶ児童朝会等がまだ行えていませんが、低学年の世話をしたりかわいがったりする高学年の姿は、学校という異学年集団だからこそ輝いているのかもしれない。

頼もしいといえば、先日、6年生の児童が学校外に散乱していたごみを自主的に拾ってくれたという出来事がありました。朝、登校時に道にごみが散乱していて、気になった6年生児童数人が担任に報告。帰りにもまだそのままになっていたというので、道具を持って行って片付けたということです。このことを後で聞いて、自分のことでなくても気付いたことは放っておかず、行動することができるって素晴らしいなあと感じました。

今日は、1年生の心臓検診がありました。検診の前、出会った1年生が、「～よりも1番こわい。」と、緊張した面持ちで話しかけてきました。先生から説明は受けているものの、一体何をされるのか未知の世界に不安いっぱい？まな板の上の鯉ならぬ、ベッドの上の1年生です。



ドキドキ心臓検診